



四国学院短期大学 メモリー memory



▲ 四国学院短期大学第1回卒業生



▲ 短大時代の北門

四国学院短期大学が2006年3月をもちまして、閉学となりました。短期大学では、1961年3月に基督教科12名、英語科47名の第1期生が卒業し、2006年3月に17名の卒業生を最後に47年の歴史にピリオドをうちました。短期大学卒業生数は、3698名になります。各年度の代表の方に、学生時代の思い出また閉学に寄せての思いをいただきました。

1960年度 基督教科卒業

山本 松治 (短大第1期生)



主の聖名を讃美します。

四国学院短大が2005年度で閉学しその記念特集を、ロゴスだよりに出すのでわたしに寄稿をとの依頼があり、今さらの様に月日の経つ早さを思いました。学院の基督教科を卒業して今年で、47年が過ぎました。

あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ、悪しき日が来たり「わたしにはなんの楽しみもない」と言うようにならない前に

(伝道の書 十一章一節)

今思えば、若さ故とはいえ恥多き時代を過ごしました。しかし、若き日に与えられた信仰の恵みは、今も生きてわたしのうちに働いています。

それでは、学生時代のことを少しお話ししましょう。土讃線善通寺駅で降りて、そのまま真っすぐ駅前通りを5、6分位歩いたころ左側に学院の正門がありました。わたしは、当時半分破れかけた大きなトランクを右手に提げ学院の門を入りました。すぐ右側にはチャペルがあり、正面には2階建ての長い校舎があり、その先にも2階建ての校舎が並んでいました。ここで、わたしは2年間、寮生活をしながら学びました。

すばらしい先生たちに出会いました。特に深い信仰と情熱にあふれた伊藤祐之先生、訥訥と語られるその聖書の教えに、わたしたちは聖言の深さを知らされました。最近になって、伊藤先生は、昭和10年代にキリスト教が弾圧にあった時の1人だったこと

をある記事で知りました。其のことを、先生は話しませんでしたでしたが深い信仰はここにあったのだと今思っています。バックステール宣教師、わずかな期間でしたが(多分夏季集中講義だけだったと思う)聖言を解き明かされた、そのすばらしさにわたしは、卒業後、先生のところで1年間お世話になりました。社会事業科目を教えられた西脇勉先生、先生と共に大阪まで学習に出かけ孤児院を訪ねたり、社会福祉施設を見学して福祉事業の大切なことを学びました。

それ以外にもすばらしい先生方に恵まれて、勉強をそっちのけで学生生活を謳歌しました。今もあるかと思いますが、先生の家庭に夜、アットホームといってお訪ねし、家庭の雰囲気を味わいました、栄養補給のときでもありました。ですから、毎晩、次々と先生のお宅を回りました。先生方には、随分無茶をしてご迷惑をお掛けしました。真面目に信仰生活が出来なかったわたしを、いろいろところで励ましてくださった、いまは亡き先生たちに心から感謝しています。

基督教科という特殊な学科は、教会でのメッセージとは異なり、学的な高等批評と言われる学説も学びそのことで、先生に反発したこともありました。

遊んでばかりいて、卒業試験に落ち追試でやっと出してもらったわたし。

しかし、若き日の学びは、年を経た今も生活の中でいきています。

わが岩、わがあがないぬしなる主よ、どうか、わたしのことばと心のおもいが、あなたのまえに喜ばれますように。

(詩篇十九篇十四節)

1970年度 英語科卒業

池上 明美 (短大第11期生)

四国学院短期大学が、2005年度卒業生を最後に閉学となり、時代の流れとはいえさみしい思いでいっぱいです。

振り返れば、私が四国学院の校門をくぐったのは1969年の4月でした。現在の大学のようなりっぱな門ではなく素朴な造りだったように記憶しています。

初めて両親の元を離れ、不安と開放感が入り交ざり、でも開放感がより勝っている心地でした。下宿はさせてもらえなかったので紫苑寮北寮に入寮しました。先輩との2人1部屋で仲良くやっていけるのか心配しましたが、とても気を使って優しくして頂いたのを幸いに甘えてばかりの新入生でした。さぞや手がかり扱いにくかったことでしょう。(大山さん、宮崎さんお世話になりました)

それまでは、両親の庇護の下で我儘で、勝手気ままにしていた自分が少しでも他人、又世間というものを考え始めた時期だったように思います。寮生の中には大変個性的な人達が多く勉強以外にもいろいろ教えて頂き真に有意義な寮生活でした。「同じ釜の飯を食べた仲」といいますが、北寮の同窓会をと思い計画を立てた事もありましたが、諸事情があり実現には至りませんでした。でもいつかお会いできる事を願っています。

また、クラブはコーラス部(短期間)、山岳部に所属し、諸行事からいろいろと学ぶ事も多く有意義なクラブ活動でした。たった2年間の学生生活ではありましたが、それまでの未熟な精神と肉体が多少なりとも鍛えられた貴重な時間だったと思います。この時期に思考の基礎部分が出来たのではないかとも思えます。社会に出て働くまでの「必要な準備期間」だったと同時に、私にとってまさに涙と笑いの「青春時代」でした。

当時に比べると立派な校舎が建築され、諸施設が充実しグラウンドも整備されています。学部、学生数、教員も増え、より充実したキャンパスライフが期待されます。四国学院大学が今後、生涯教育における地域の核としてますます発展していかれそうですようお祈りしています。

1983年度 英語科卒業

飛田 由香 (短大第24期生)

ロゴスだよりをご覧の皆様、こんにちは。この春短大が閉学となり最後の卒業生17名を送り出された事を知り、惜別の思いを感じているのは私だけではないでしょう。

83年度卒の私のキャンパスの思い出は、四国4県の私立短大球技大会が四国学院で開催され、テニスを選択したことです。(結果は散々でしたが楽しかった。)振り返れば当時の推薦、一般入試の倍率は高く、しかも卒業試験も難解でした。合否の貼り出しを真夜中のキャンパスへ事前に見に行った友人もいたくらいです。英語科は、E、Fのクラスに分かれていましたが、互いに顔見知りになりながら授業を受けたことは懐かしい思い出です。



卒業後私は、四国電力グループの四電エンジニアリングに入社し、瞬く間に22年の中堅社員になり、結婚、出産、子育てを経験しながらOL生活を送っています。仕事柄英語が必要になり、通信教育で錆び付いた英語力を復活させていますが、四国学院短大の英語科で学んだものは22年経ちますが体の一部に残っているようです。真面目に勉強しなければ卒業が出来ないと言われ、試験前は市の図書館で英語漬けだった毎日。短大時代が今までで一番勉強した時代だったような...

現在も友人達との付き合いが続いており、会うたびに短大時代のハードな勉強の話で盛り上がっています。信頼のおける大切な友人と出会えた四国学院キャンパスは忘れられず、生涯感謝の念を禁じ得ません。短大卒業生皆様方のご活躍とさらなる発展を心より期待しています。

1998年度 英語科卒業

内田 幸江 (短大第39期生)

私が就職活動をした時は、「超氷河期よりも氷河期」といわれた年でした。しかし、就職戦線は年々厳しくなり、毎年「過去最悪」といわれるほどでした。

就職活動といわれても具体的に何をすればよいのかもわからず、周囲からは「早く活動しなさい!」とせかされ、当然、不安の中でのスタートでした。そんな時に心強かったのが短大事務室の先生方でした。私は、毎日のように短大事務室に通っていました。そこには就職に関しての情報がたくさんあり、また先生方には、面接の練習を何度もしていただき、履歴書の書き方も指導していただくなど本当に御世話になりました。内定をもらえず、落ち込んだこともありましたが、一生に一度の就職活動を楽しみました。



(前列、右端が内田さん)

現在、私は、今年日本銀行において社会人8年目を迎えました。入行当初は、ただ職場の雰囲気や仕事に慣れるのに精一杯で、どのような仕事を担当するのか、どう取り組んでいけばいいのかと緊張や不安が絶えませんでした。仕事を覚え、こなすのはもちろん、今まで気にもしなかった礼儀・言葉遣い・来客対応等、学生との違いをひしひしと感じました。しかし、上司や先輩方の暖かい指導のおかげで、日増しに不安感が薄らいていき、時には私的な面での相談にのっていただくこともあって、職場での人間関係は大変恵まれています。

在学中は、素敵な恩師、よき友人たちと巡り会え、今でも連絡を取り合うことができる関係にあるのはとても幸せだと感じます。予習・復習に励んだ授業。よい経験となった就職活動。なんでも話せた友人。とても鮮やかに目に浮かびます。閉学となり寂しくもありますが、これまで短大を支えてこられたすべての方々へ感謝するとともに、充実した短大生活を胸にこれからも過ごしていきたいと思います。ありがとうございました。

田中 聡美 (短大第46期生)

私が四国学院短期大学に所属した2年間は、今までの学校生活の中で一番充実し、いろいろな面で成長できた楽しい時間でした。私達が短期大学最後の卒業生になることを聞かされたのは、まだ1年の6月頃だったと思います。あまり実感はなく悲しくありませんでした。その時はまだ短期大学に愛着を持っていなかったのかもしれませんが。そんな短期大学に愛着を持ち始めたのは、2年生の必修授業プラクティカムⅡという普通寺市の町おこして夏祭りなどを行ってからです。それまでは、あまり話したことのない友人とも活動を通していろんな話をするようになりました。先生方とも衝突し、助けられたこともありました。この時から、学生同士、学生と先生方とはとても仲良くなれたような気がします。短期大学に設けられた学生ラウンジは、短期大学事務室・研究室が一緒になっていたため、そこに行くとき毎日のように事務の方、助手さんが居て、絶対に学生の誰かが居る。そこに時々先生も顔を出してくれる幸せな空間でした。そこではとても賑やかで楽しい毎日、幸せを感じる空間でした。短大にかかわる皆が一つの大家族と言っても良いくらい皆が仲良しでした。その頃から短期大学を卒業するのが、とても寂しく悲しく思うようになってきました。

卒業してしまった今、後輩が出来なかったことは少し残念に思います。しかし、私たちが最後の卒業生でとても嬉しく思います。なぜならば、皆が皆の事を忘れていられるからです。今はなくなってしまった短期大学ですが、大学に行くと大学に残っている当時の短期大学の方々は私を明るく迎えてくれます。短期大学はなくなってしまったけど、私たち卒業生が帰れる場所があります。社会人となった私たちは、当時とは少し違った悩みができ苦しくなった時に相談できる場所があること。それは幸せで嬉しいことです。

今、私はどこの短期大学よりも四国学院短期大学を選んで良かったと感じています。このような家族のような短期大学は他にないです。私たち卒業生は先生方々からとても愛されていると思っています。私たち自身も今まで一番大好きな学校ではないかと思います。これほどまで、私にとっては大きな存在の短期大学でした。夢のような時間を過ごせました。皆それぞれに新しい道に進みましたが、この2年をずっと忘れることはないと思います。貴重な時間を皆と過ごせて、そしてなにより四国学院短期大学に在学できたことが誇りです。



(2列目左から4番目が田中さん)

1

四国学院同窓会総会報告 2005年8月6日 14時～18時 (総会・記念講演会・懇親会)

学校法人四国学院より末吉高明学長他多数の先生方をお招きし、総勢135名の同窓生のご出席をたまわりました。

総会 (仰光館)

議事 1 事業報告及び会計決算報告(2002年度～2004年度) / 監査報告

● **事業報告** 林 邦彦会長より報告があり承認されました。主な内容は次の通りです。

- ① 本部関係活動報告
役員会では、本部役員以外にも幅広く意見を聞くために支部代表を招いて拡大役員会を開催
- ② 支部活動報告
関東支部総会(2002年11月、2003年11月、2004年11月)、高知県支部結成総会(2003年11月)、愛媛県支部「広島カープ 天野浩一君激励会」(2004年6月)、愛媛県支部総会(2004年8月)、大阪支部結成総会(2004年7月)
- ③ ログス館の運営状況報告
2002年度～2004年度に延5706名の同窓生、在学生が利用
- ④ 同窓会会報「ログスだより」発刊
年1回発刊で2005年で7号を数える

● **会計決算報告** 牧本憲尚副会長より報告があり承認されました。

● **監査報告** 宮内忠利監事より同窓会の財政の確認並びに役員の業務執行状況が良好であると報告があり承認されました。

議事2 事業計画及び会計予算(2005年度、2006年度)

● **事業計画** 林 邦彦会長より提案があり承認されました。主な内容は次の通りです。

- ① 本部役員と支部代表による役員総会(従来の拡大役員会)を開催し、同窓会活動や四国学院への支援について話し合う
- ② 四国学院執行部との意見交換会をもち、四国学院の現状や将来的展望について、四国学院に対して提案をする
- ③ 四国学院及び学生支援として、「ヒューマンライツ活性化要綱」に対して四国学院に1000万円を寄付する
- ④ 既設支部活動の強化 ⑤ 未設置支部の設置 ⑥ 四国学院への学生募集、就職等広報支援活動への協力
- ⑦ 同窓会会報「ロゴスだより」の定期年発行

● **会計予算** 牧本憲尚副会長より提案があり承認されました。

議事3 役員改選

次の通り役員承認がされました。

会長	林 邦彦	1968年度	英文学科卒業
副会長	岩崎 啓一	1973年度	人文学科卒業
	牧本 憲尚	1977年度	社会福祉学科卒業
書記	飛田 由香	1983年度	英語科卒業
	森江 華子	1996年度	応用社会学科卒業
会計	山本 宏	1977年度	人文学科卒業
	黒石 英幹	1996年度	英文学科卒業
監事	山田 昭和	1960年度	英語科卒業
	幸田 純	1980年度	教育学科卒業



議事4 四国学院同窓会会則改正

(主な要点)

1. 従来の総会の機能を役員と支部代表が構成する役員総会に移行し、年1回開催する。総会は5年1回開催する。役員総会を開催することによって、同窓会としての意志決定が迅速化すること、また支部代表の選出が必要となるので、支部活動が活性化され、より多くの会員の意見が聞こえてくるようになります。
2. 同窓会正会員について、「四国学院基督教学園、四国学院短期大学、四国学院大学、大学院を卒業したもの、及び当学院に在籍したもので役員会の承認したもの」とし、中途退学者についても役員会の承認により会員になることができます。

記念講演会(光風館)

全国にうどんブームを巻き起こしました四国学院大学の田尾和俊教授の講演会「アイデアの素」を、一般の方にもお越しいただき開催しました。



2 根来泰治広島県支部長(学校法人四国学院前理事長)ご逝去

四国学院同窓会広島県支部長であられました根来泰治さん(1971年度人文学科卒業)が昨年12月にご逝去されました。根来さんは、四国学院同窓会から学校法人四国学院評議員として選出された後、理事そして理事長として選任されました。同窓会と大学の架け橋となり、大学運営また同窓会活動に多大なるご尽力をいただき、ここに深い感謝の意とご冥福をお祈りしたいと思っております。

3

ロゴス館10周年

ロゴス館は1996年6月にオープンし今年で10年が経過いたしました。延利用者数は、17,968名(1996年6月～2006年3月まで)で沢山の同窓生、在學生、教職員にご利用いただきました。ロゴス館建設の理念でありました“四国学院に連なる全ての人々の交流と親睦を図り、四国学院のさらなる発展に寄与することを願って”、今後もロゴス館を訪れていただけますよう、お待ちしております。

部屋	定員	室数	使用料
2階和室	10人程度	2	一人 1,200円
2階ベッド	6人/10人	各1	一人 1,200円
3階和室	4人	2	一室 7,500円
3階個室	1人	4	一室 3,000円

旅行、仕事、同窓会等にもお気軽にご利用ください。週末またシーズン中は大変混み合いますのでお早めにご予約を。詳しくは、同窓会ホームページをご覧ください。

お問合せ・お申込み 四国学院同窓会事務局 0120-459-500

4

映画「UDON」、四国学院大学で撮影

「踊る大捜査線 THE MOVIE2 レインボーブリッジを封鎖せよ」の香川県出身本広克行監督の映画「UDON」が、4月12日に四国学院大学内で多数の在學生をエキストラに撮影が行われました。昨年公開されました本広監督による「サマータイムマシン・ブルース」の次回作で、またまた、四国学院大学が登場いたします。ブームの域を越えしっかり定着した讃岐うどんをテーマに、新たなフードエンターテインメントの映画です。主演はユースケサンタマリア・小西真奈美。公開は、今年8月末の予定です。是非ご覧ください。

5

2007年度四国学院大学学生募集のお知らせ

2006年	11月9日(木)～11月11日(土)	推薦入学選考
	10月3日(火)～12月15日(金)	AO入試:パーソナル推薦入学選考(A日程)
	11月9日(木)	大学院(A日程)・編入(A日程)・社会人入学試験
2007年	2月10日(土)	大学院(B日程)・編入(B日程)・入学試験
	2月10日(土)～2月11日(日)	一般入学試験(A日程)
	2月13日(火)～3月27日(火)	AO入試:パーソナル推薦入学選考(B日程)
	3月5日(月)	一般入学試験(B日程)・大学院(C日程)入学試験

※AO入試:パーソナル推薦入学選考とは本学AO(アドミッションズ・オフィス)にて面接と書類審査にて選考する入試制度です。

※学生募集要項お送りします。

お問合せ 「四国学院入試課」 0120-459-433

学院ホームページ <http://www.sg-u.ac.jp> 四国学院大学の企画案内も学院ホームページをご覧ください。

6

事務局から住所変更届けのお願い

同窓生の皆様には、支部会開催のご案内、「ロゴスだより」、四国学院大学案内また企画案内等、お送りしています。“転居先不明”で郵便物が同窓会に返送されてくる悲しいことにならないように、お手数ですが、ご自身で当会までご連絡ください。同窓会ホームページからでも変更できます。

編集後記

短大閉学。短大存続を心より願っていましたが、残念ながら流れに逆らうことが出来ませんでした。四国学院短大は大学の敷地内にあり、学生は4年制の学生と同じ生活を送りながら忙しいカリキュラムをこなしてきました。就職にも有利でありましたが、4年制指向の現在にはその存在が薄れて来たようです。しかし多くの短大卒業生の皆様が同窓会には存在しています。懐かしいキャンパスでお会いできることを楽しみにしています。近く短大同窓会が開かれた折には是非お出かけください。皆様のご活躍と健康をお祈りしています。

<会報委員> 飛田 由香(1983年度 英語科卒)